St. Luke's International University Repository

# ナイチンゲールに倣う実践知



| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2021-03-12<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 小澤, 道子, Ozawa, Michiko<br>メールアドレス:<br>所属: |
|---|---|
| URL | https://doi.org/10.34414/00014922 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

—— シンポジウム ——

# ナイチンゲールに倣う実践知

小 澤 道 子[1)]

## 【はじめに】

ナイチンゲールの「NOTES ON NURSING」第Ⅱ版（看護覚え書 1860）の原文をグループでテクスト[1)]を定め読み進めてきている。19 世紀の古典を 21 世紀の現在に生きる私たちが読む作業は，国を超え時代を超えても残る言葉が，言葉として残されている本をとおして著者と出会っていることでもある。

ナイチンゲールは，19 世紀（1820 ～1910）をほぼ生きた方であり，恵まれた上流階級として豊かな教養と学識，確たるキリスト教への信仰，そして強靭な実践力をもつ希有な人物であることが知られている。

今回は，ナイチンゲールに倣う実践知として「NOTES ON NURSING」を取り上げ，①題名の NOTES ということ，②本の目的，③語りとしての本の 3 つに注目し，本文内容を示しながら考えていることを述べたい。

今回の読み方について，ナイチンゲールがどのように思われるかを想像すると恐れ多いが，一方恐れながら如何でしょうかと伺いたい思いにもなる。

## 【「NOTES ON NURSING」のNOTES ということ】

題名の NOTES が覚え書と訳されている如く，NOTES からは，ナイチンゲールが看護について心に留め，書きつけたメモであり，見聞きし，注意を寄せたことを率直に控えた記録と解釈できる。しかも，病人の世話をしながら，よく見て，感じて，思って，気づいて，なぜだろう，これでいいのか，こうしてはどうかなどの体験的事実をありのままに書き記してある（表 1)。

**表 1　ほとんどすべての患者は，顔を光に向けて寝る**

患者たちがほとんど皆，ちょうど植物が光に向かって延びていくように，顔を光に向けて寝ている姿は何とも不思議なものです。中には，「こちら向きで寝ると」身体が痛いなどとぼやく患者もいます。「それなのになぜ，わざわざそちらを向くのですか？」と尋ねてみても，患者にはわかりません。でも私たちにはわかります。それはそちらに窓があるからなのです。

（第 9 章　日光　p 139）

見方でいえば，デカルトに代表される近代科学の自分を切り離して概念的に観察する「我思考する，故に我あり」とは逆の，自分の存在を入れ込み，関わりながら観察する「我あり，故に我思考する」の立場に近く，記述様式は，今でいうフィールドノートに近いものと思う。そして，これらのありのままの記述（フィールドノート）は，さらに，何をいいたいかの一行見出し（コード化・カテゴリー化）をつけている。そして，テーマ毎に整理をして，第 1 章から第 13 章，終章・補章と章立てをおこない，序章に「看護や病気の定義」，「自然の法則や神の法則」というナイチンゲール独自の考え方を述べて一冊の本の構成になっている（表 2)。

**表 2　看護覚え書（第Ⅱ版）**
**－NOTES on NURSING－**

著者：フローレンス・ナイチンゲール（1820—1910）
出版：1860 年
構成：序章，1 ～13 章，終章，補章

| | |
|---|---|
| 序章 | |
| 1 章：換気と保温 | 8 章：ベッドと寝具類 |
| 2 章：住居の衛生 | 9 章：日光 |
| 3 章：小管理 | 10章：部屋と壁の清潔 |
| 4 章：音 | 11章：身体の清潔 |
| 5 章：変化 | 12章：余計な励ましと忠告 |
| 6 章：食事 | 13章：病人の観察 |
| 7 章：どんな食物を与えるか | 補章 |

実践現場でのありのままの現象の記述である NOTES は，読み手に「本当にそうだと気づきや実感や納得をもたらす」ものである。同時に，現場で徹底した観察をすること，そしてそれを記録することが，新しい事実の発見や，それまで結びつかなかった事柄の関係をつなげることも知らされた。これらの手続きが実践知を構成していくことにつながると考えた。

## 【考え方のヒントを目的とした「NOTES ON NURSING」】

ナイチンゲールは，『この書は，他人の健康に直接責任を負っている女性たちに，考え方のヒントを与えるためにのみ書かれたものなのです』（はしがき）と示している。この考え方のヒントの与え方の解釈のひとつとし

1）聖路加看護大学

て，今回は，修辞学的手法において，読み手に強調する効果を意図する対の言語表現に注目をした。

例えば，「NOTES ON NURSING」の副題は，What it is and What it is not（何が看護であり，何が看護でないか）であり，「看護であるもの」と「看護でないもの」の二項の対の表現をとっている（表3）。これは，看護であるものと看護でないものの両側面から，その対立や矛盾を含め，考えていく過程のなかで，自分の考える看護がより明確に意味づけられるという手法をとっているとよめる。

**表3　題名と副題**

NOTES　ON　NURSING
－What it is and What it is not－

看護覚え書
－何が看護であり，何が看護でないか－

同様に対の視点から，有名な看護の定義の箇所をみると，「今までの看護」と「ナイチンゲールの考える看護」の二項が対で構成されている（表4）。すなわち，前者は『看護といえばこれまでは，薬を与えたり，湿布を施したりという程度の意味しか持ちませんでした』であり，後者は『看護とは，新鮮な空気や陽光，暖かさや清潔さや静かさを適正に保ち，食事を適切に選び管理する・・すなわち，患者にとって生命力の消耗が最小になるようにして，これらすべてを適切に行うことであるという意味を持つべきなのです』である。そして，読み手にこの二項の対を考えるヒントとして示し，あなたはどう考えるかを問い，読み手が答えを求めて行くことが意図されていると解釈できる。なお，この対の言語表現に関しては，覚え書原文の文体論分析を行い，すべての章に対の言語表現が存在していたことが指摘されている[2)]。

**表4　看護 (Nursing)**

「看護(Nursing)という言葉を私は使っていますが，これは他に良い言葉が見つからないからです。看護といえばこれまでは，薬を与えたり，湿布を施したりという程度の意味しか持ちませんでした。

しかし看護とは，新鮮な空気や陽光，暖かさや清潔さや静かさを適正に保ち，食事を適切に選び管理する・・・すなわち，患者にとっての生命力の消耗が最少になるようにして，これらすべてを適切に行うことである，という意味を持つべきなのです。」

（序章　p5）

また，対の読み方の例として，患者の個性についての箇所をみると，優れた看護は「すべての病人に共通することがら」と「個々の病人に固有なことがら」をともにつぶさに観察することから成り立っていると述べている（表5）。「あれかこれか」という対のどちらかに近い答えを求めるのではなく，「あれもこれも」という二項の対を超える多様性に迫る考えるヒントの出し方をしているとよめる。この「あれもこれも」という考えは，人の生活現象や健康現象を含め，実践現場の複雑さや多義性，そして多様性を経験し，知っている者の視座が反映されていると読み取った。さらに，現場でどのように振舞うかの具体的な事柄の背後には，それを行う固有名詞の看護師の価値観，信念，哲学，関心などの存在を対で強調している箇所が多くあった。

**表5　患者の個性について**

しかし看護には、「神秘」など全く存在しません。優れた看護というのは，すべての病人に共通することがらと，個々の病人に固有のことがらを，共につぶさに観察することのみで成り立っているのです。

（第13章　病人の観察　p193）

以上，覚え書は，ナイチンゲールの実践現場で五感を通した看護行為の様相とその五感の背後にある信条と思索が入れ子構造のように展開されながら，読み手に考えるヒントを示していた。これらは，実践者が，たえず，あなたはどこに立っているのかという価値と向き合うことを示している。この価値を問う過程，すなわち，経験から価値（意味）へ，価値（意味）から経験への連鎖とその円環が実践知を生むことにつながると考えられた。

## 【語りとしての「NOTES ON NURSING」】

五感を通して感じられたリアルな看護体験の記述の背後に，一人称の「ナイチンゲール」という人の存在が強く感じられた。従って，ナイチンゲールが自らの体験から書き記した言葉（語り）は，読み手の体験と重なり，書き手と読み手の語り（看護実践）が共有され，これらのプロセスの中に，より良い看護実践（物語）へつながるエネルギーを感じる。言い換えれば，語られた内容は，読み手に響きとズレをもたらせながら読み手と結びつき，読み手に新たに開かれた知をもたらしていくものになると考えた。

## 文献

1）Nightingale, F., NOTES ON NURSING, 1860（小林章夫・竹内喜訳，看護覚え書 対訳，うぶすな書院，1998）

2）木村恵美子，「NOTES ON NURSING」（Ⅱ版）の読み方の試み－対の視点からの文体論分析－，聖路加看護学会誌，Vol 5(1)，23-31，2001